

那須正幹さんを偲ぶ会が行われました

当協会元会長、「ズッコケ三人組」シリーズなどで知られる作家の那須正幹さんを偲ぶ会が、7月14日、午後1時から、東京會館で行われました。

那須さんは昨年7月22日に急逝されましたが、コロナ過の中でお別れの会などを開くことができず、亡くなられて一年を前に、当協会の藤田のぼる事務局長、同人誌「亜空間」のお仲間だった作家の肥田美代子さん、ポプラ社の千葉均社長などが発起人となり、開催されたものです。

偲ぶ会は、那須さんと親交のあった元NHKアナウンサーの村上信夫さんの司会で進められ、上記の発起人の他、絵本『絵で読む広島原爆』などを共に作られた画家の西村繁男さん、「ズッコケ三人組」の映画に出演したことがきっかけで親交を結んだ俳優の原田大二郎さん、そして那須さんの「読者」代表や共に仕事をした画家、編集者などが、生前の思い出を語りました。そして、山口県防府からかけつけられた美佐子夫人が、お子さんやお孫さんたちを紹介され、ご家族としてのご挨拶を述べられました。

協会では、『日本児童文学』3・4月号で特集「追悼・那須正幹—その世界と方法—」を組みましたが、参会者にはこの追悼号と、11月にポプラ社から発刊予定の『那須正幹の大研究』のパイロット版が渡されました。

偲ぶ会でも報告されましたが、那須正幹さんは、その遺言で、ご自身の著作権を当協会に遺贈されました。協会では、那須正幹作品がこれからも多くの読者に読まれつづけていくように、著作権管理や那須作品の顕彰にあたっていきます。

